

政策推進課

バイオマスを身近に感じる一日  
しょうばらバイオマスフォーラム2008

見て・聞いて・ふれてバイオマスを身近に感じてもらうため、市とSARUPプロジェクト会議は11月15日、リサイクルプラザで「しょうばらバイオマスフォーラム」を開催しました。

会場では、ペレットストーブの実演即売やペレットボイラーの展示、木製リサイクル品の販売や林業体験コーナー、さらには、(株)ジユオンが実施している木質バイオエタノール実証実験の見学な

ど、バイオマスに関するイベントに多くの人が集まりました。

また午後からは、庄原市で長年研究を続けている県立広島大学の森永力教授が、「庄原市におけるバイオマス有効活用の可能性」と題して講演し、約120人が参加。地元にも豊富に存在するバイオマス資源の有効活用について、これまでの研究成果を交えて話しました。



森永教授の講演(上)、ペレットストーブなどの展示(下)

商工観光課

地元就職を支援し定住へ

庄原市合同企業説明会

本年度第2回目となる庄原市合同企業説明会を11月9日、東城支所で開催しました。

この説明会は、市の「待つとるよ！庄原定住プロジェクト」の環として、地元就職を希望する中途求職者や大学生、Uターン・Iターン希望者と、地元企業との出会いの場を設け、庄原市への定住を促進しようとするものです。

この日は、製造業・社会福祉事業など、市内企業9社が参加。

会場では、学生から中高年までの参加者が、それぞれの企業ブースを訪ね、熱心に採用担当者の説明に耳を傾け、質疑応答が行われました。

また、庄原市による定住相談コーナーも設け、幅広く定住に関する情報も提供しました。

商工観光課では引き続き、定住相談などを受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

(0824・73・1178)



採用担当者がパソコンを使用して説明

生涯学習課

大学の知識・技術を市民へ

県立広島大学市民公開講座

県立広島大学市民公開講座を10月29日から11月25日、県立広島大学庄原キャンパスで開催し、5回の講演に延べ約200人が受講しました。

この公開講座は、大学の持つ専門的で高度な知識・技術が学べるよう、県立広島大学が開校した翌年の平成2年から始まり、今年で19年目になります。

今回の講座では、「温故知新・

見つめなおす庄原の宝」をメインテーマに、5人の先生が「中山間地域の商品づくりと販路拡大」「食と農を考える」「限界集落と地域おこし」など、地域に密着した5つの話題でそれぞれ講演しました。

来年度も引き続き、6月下旬からの前期と10月下旬からの後期の2期に分けて、実施する予定です。



武藤徳男教授の「食と農を考える」講座

総務課

シンボルツリーを設置  
新庁舎建設の進捗状況



クレーンでシンボルツリーを吊り上げる

支所 和支所 市民生活室

健診結果を生かそう

健康づくり講演会

健康づくり講演会を10月28日、口和老人福祉センターで開催し、約40人が参加しました。

これは、健康づくりと病気に ついて学ばうと毎年実施しているもので、今回は庄原赤十字病院 第2内科部長の服部宜裕医師が、「健診結果が教えてくれるあ

なたの体の今とこれから」と題して講演しました。

服部医師は、「健診結果からどの部分に異常があるのか、また警告を発しているのかをよく把握することによって、日々の生活を見つめ直すきっかけになる」と説明。また、最近よく耳にするメタボリックシンドロームについても触れ、「健診結果の中からもメタボリックシンドロームの



講演する服部医師

予防や改善もできる」と話し、健診結果を今後の生活に生かすことの重要性を呼びかけました。

新庁舎建設工事の進捗状況は10月末現在で約50%、5階までの床・外壁のコンクリート打設といった躯体工事が完了しました。

11月1日には、地域木材の振興やPRを兼ねた高さ約12mの幹周り約2mのシンボルツリーを庁舎内へ建て込みました。

今後は、内装工事、外壁タイル工事、屋根工事等の仕上げ工事と平行して、電気・空調機械設備などの工事を行い、来年2月末の完成を目指します。

